



ユニチカ株式会社

2027年3月期 第1四半期 決算の概要

2026年8月6日

- 1 決算のポイント**
- 2 2027年3月期 第1四半期決算概要**
- 3 参考資料**

2027年 3月期 1Q実績

- 》事業撤退の影響により全社の売上高は前年同四半期比▲68億円の241億円となったが、高付加価値・高機能製品の販売拡大、価格改定の効果等により、継続事業においては増収を維持。
- 》高付加価値・高機能製品の販売拡大、不採算販売の見直し、価格改定およびコストダウン施策の効果により、営業利益は42億円（前年同四半期比＋13億円）と大幅に伸長し、四半期ベースで過去最高益を更新。
- 》営業利益の増加に加え、円安進行に伴う為替差益の発生や、有利子負債圧縮に伴う支払利息の減少等により、経常利益は43億円（前年同四半期比＋25億円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は41億円（前年同四半期比＋28億円）と、いずれも大幅な増益を確保。

2027年 3月期 通期業績予想

- 》当第1四半期の業績は、高付加価値・高機能製品の販売拡大などにより計画を上回って推移しており、通期業績予想に対しても高い進捗率となっている。
- 》足元の収益環境は堅調に推移しているが、原燃料価格や市場動向などの不確実性を勘案し、現時点では業績予想を据え置く。今後の事業環境や業績動向を精査のうえ、必要に応じて業績予想を見直す。
- 》2026年5月公表
売上高：840億円 営業利益：80億円 経常利益：65億円 当期純利益：50億円

売上高

241億円（前年同四半期 309億円 /前年同四半期比 ▲68億円）

事業撤退の影響により前年同四半期比22.0%の減収となったものの、継続事業は増収を達成。高分子およびガラス繊維を中心とした高付加価値・高機能製品の販売拡大に加え、原材料の供給不安を背景とした需要増や価格改定が増収を牽引。

営業利益

42億円（前年同四半期 28億円 /前年同四半期比 +13億円）

高付加価値・高機能製品の販売拡大、不採算販売の見直し、価格改定、コストダウン施策の効果により前年同四半期比46.4%の大幅な増益。営業利益率も17.3%（前年同四半期比+8.1ポイント）と大幅に向上。

経常利益

43億円（前年同四半期 18億円 /前年同四半期比 +25億円）

営業利益の増加に加え、円安の進行に伴う外貨建資産評価益等の為替差益を計上したことや、構造改革による有利子負債の圧縮に伴う支払利息の減少等により、前年同四半期比135.7%の増益。

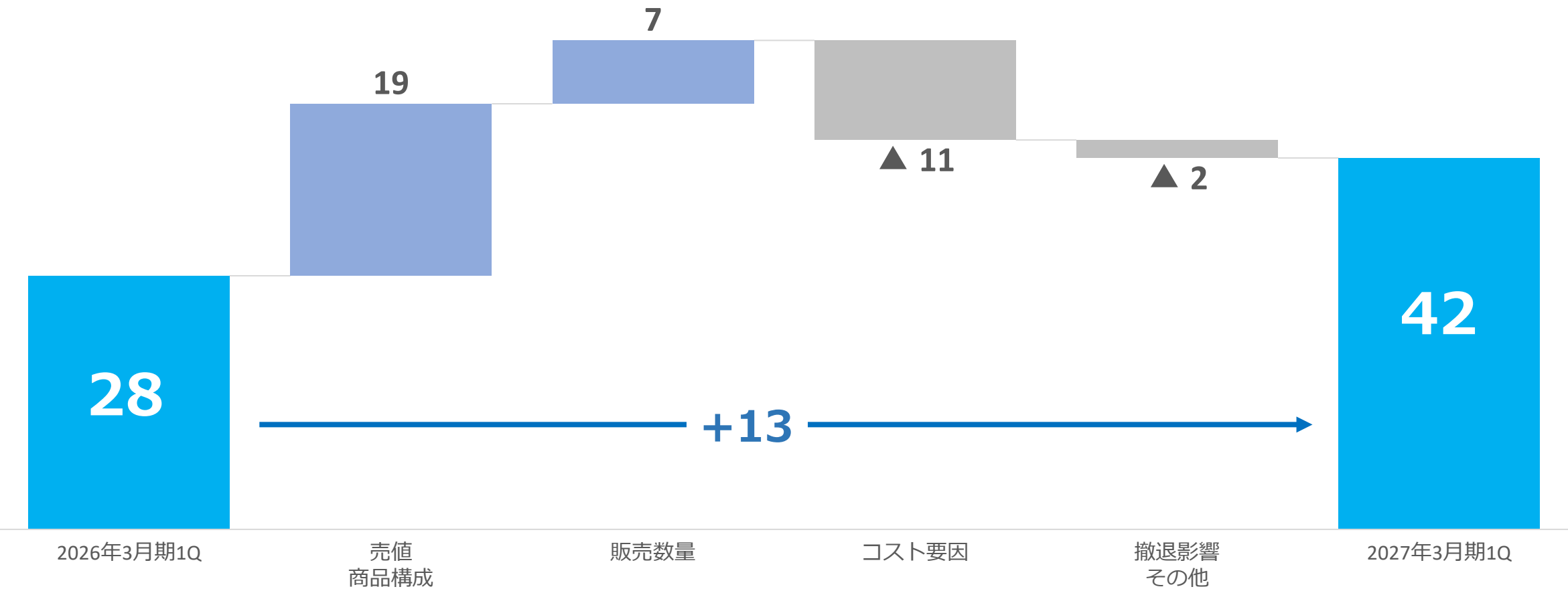
親会社株主に
帰属する
四半期純利益**41億円**（前年同四半期 13億円 /前年同四半期比 +28億円）

2. 2027年3月期 第1四半期決算概要 業績の概要（2）

連結合計 (単位：億円)	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	2027年3月期 1Q実績	前々期比	前期比
売上高	307	309	241	▲66	▲68
売上総利益	61	77	78	+18	+2
営業利益	12	28	42	+30	+13
営業利益率	(3.8%)	(9.2%)	(17.3%)	(+13.5pt)	(+8.1pt)
経常利益	27	18	43	+16	+25
特別利益	2	—	1	▲1	+1
特別損失	1	1	1	▲0	+0
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	13	41	+21	+28
減価償却費*	12	7	7	▲5	▲0
設備投資*	13	8	13	+0	+5

* 減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

金額単位：億円



セグメント別 (金額単位：億円)	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前期比増減	
			金額	率
売上高	309	241	▲68	▲22.0%
高分子事業	139	170	+31	+22.0%
機能資材事業	96	49	▲46	▲48.4%
その他事業	74	21	▲52	▲71.0%
営業利益	28	42	+13	+46.4%
高分子事業	23	31	+7	+31.6%
機能資材事業	5	11	+6	+136.9%
その他事業	1	▲0	▲1	—

金額単位：億円		2026年 3月期1Q	2027年 3月期1Q	増減
売上高		139	170	+31
	フィルム	84	101	+17
	樹脂	36	45	+9
	他	20	25	+5
営業利益		23	31	+7

フィルム事業

包装分野は、石化製品の供給不安を背景とした需要増により販売が伸長。工業分野は、電子材料分野の好調な需要継続により堅調。海外でも包装分野は高機能製品を中心に販売が拡大。

樹脂事業

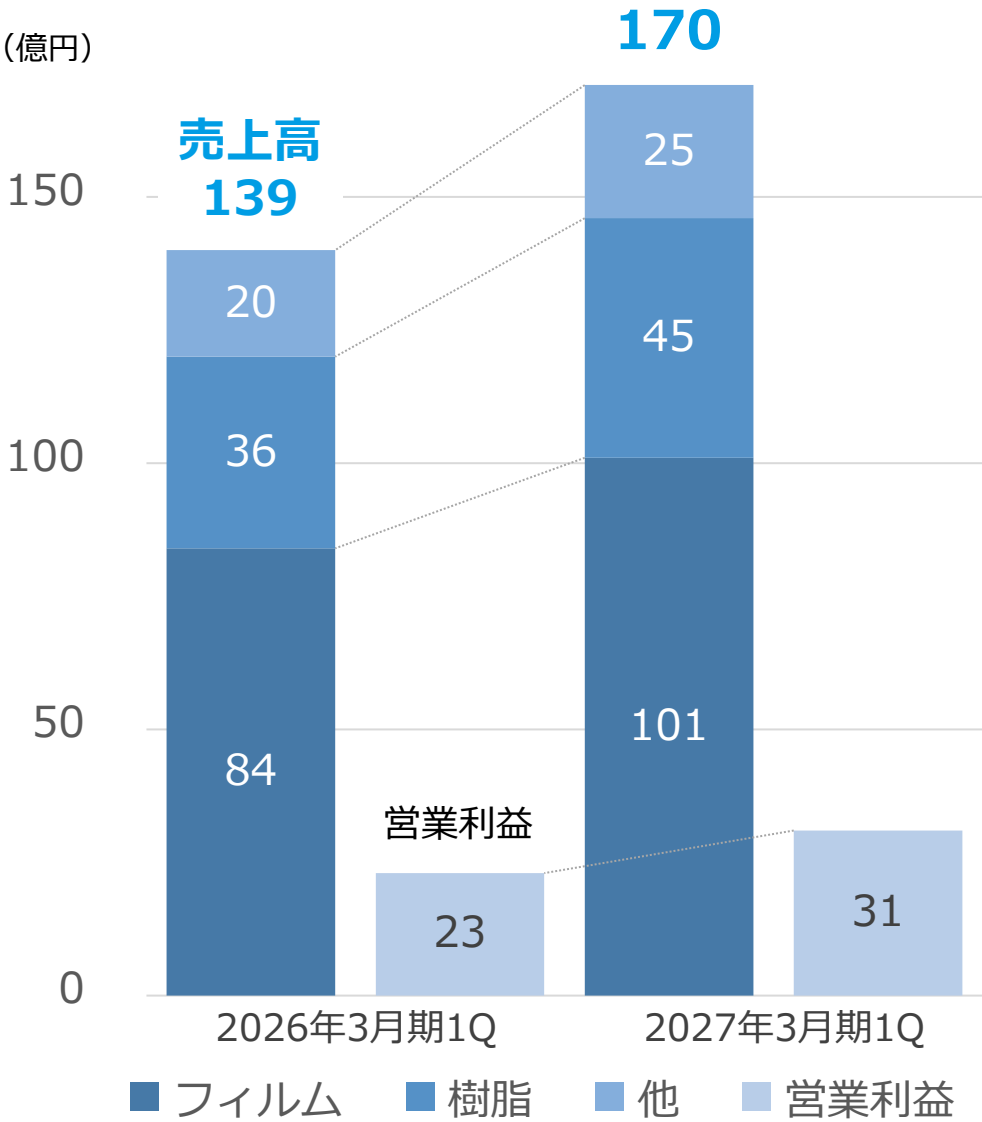
エンプラは自動車部品用途および電気・電子部品用途が引き続き堅調。供給不安を背景とした需要増も販売を下支え。機能樹脂は販売が好調。

他事業

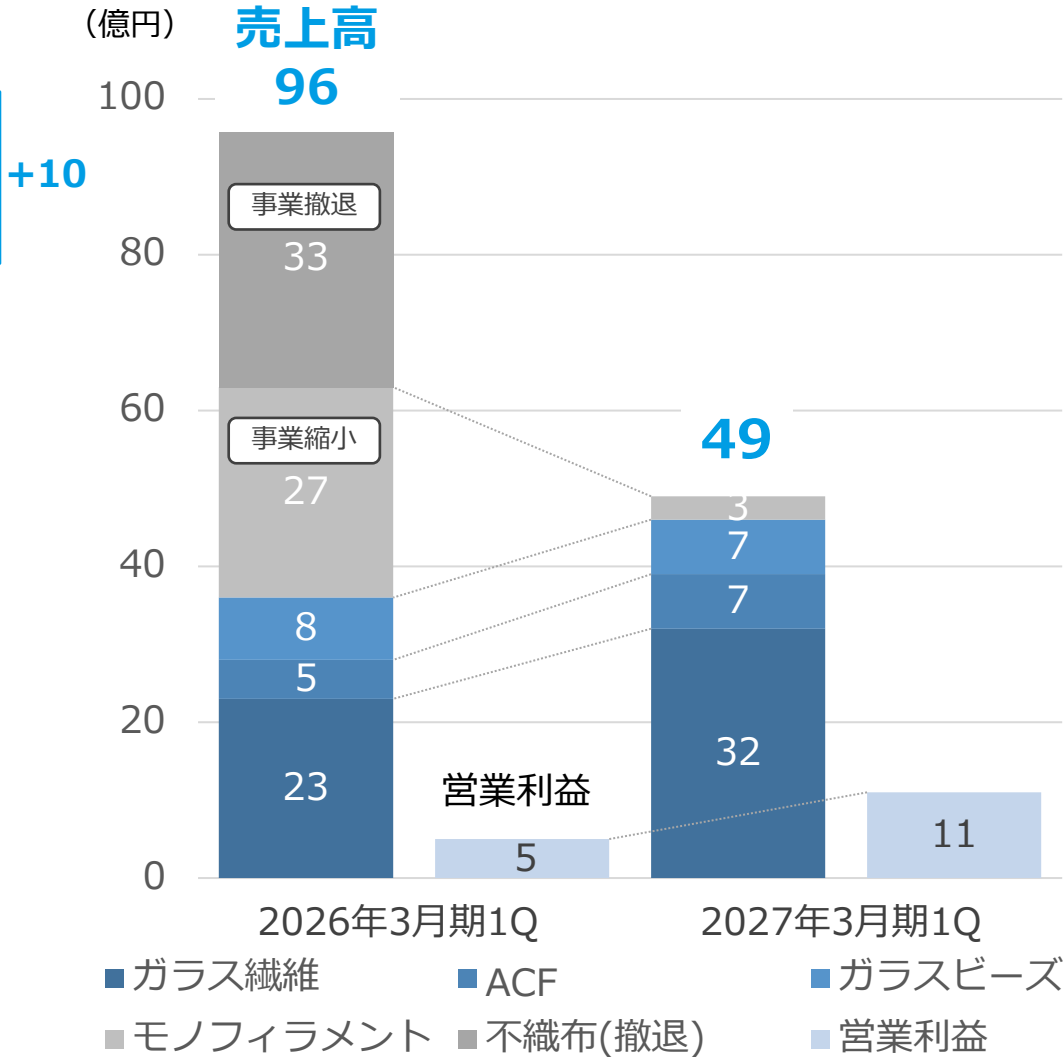
ユニチカ上海では、ハイバリアナイロンフィルム「エンブレムHG」を中心に販売が拡大し、引き続き好調。

セグメント営業利益

高付加価値品の販売伸長に加え、機動的な価格改定、不採算販売の見直しおよびコストダウンの効果により増益。



金額単位：億円		2026年 3月期1Q	2027年 3月期1Q	増減
売上高		96	49	▲46
	ガラス繊維	23	32	+9
	活性炭繊維(ACF)	5	7	+2
	ガラスビーズ	8	7	▲0
	モノフィラメント	27	3	▲24
	不織布（撤退）	33	—	▲33
(旧産業繊維)				
営業利益		5	11	+6



ガラス繊維事業

産業資材分野は、建築資材用途および電気電子用途で堅調。電子材料分野は、超極薄低熱膨張ガラスクロスおよび超極薄Eガラスクロスの販売が引き続き好調で、アプリケーションプロセッサ用途への採用も拡大。

活性炭繊維（ACF）事業

空気浄化用途の販売は好調。めっき液フィルター用途は電子関連向け販売は堅調。

ガラスビーズ事業

道路用途はシェア拡大により販売が増加。工業用途および反射材用途の販売は低調。

モノフィラメント事業（旧産業繊維事業）

水産用途およびスポーツ用途は堅調。ナイロン中空糸膜は半導体分野向けが好調。

セグメント営業利益

価格改定およびコストダウン効果に加え、ガラス繊維の高機能製品の販売伸長により増益。

(注)モノフィラメント事業の前期の売上高にはその後撤退した産業繊維事業の売上高が含まれているため、前年同時期比較には留意が必要。

3. 参考資料：セグメント別 四半期売上高・営業利益

(金額単位：億円)		2024年 1Q	2024年 2Q	2024年 3Q	2024年 4Q	2025年 1Q	2025年 2Q	2025年 3Q	2025年 4Q	2026年 1Q
売上高		307	309	320	329	309	312	335	229	241
	高分子	141	140	141	132	139	144	141	139	170
	機能資材	93	91	92	95	96	95	101	46	49
	その他*	73	78	87	102	74	74	93	45	21
営業利益		12	11	21	16	28	28	34	15	42
	高分子	15	13	18	15	23	27	26	19	31
	機能資材	▲0	2	3	▲1	5	4	6	2	11
	その他*	▲3	▲5	▲0	2	0	▲3	2	▲5	▲0

* 旧繊維セグメントの数値は「その他」に含む。

3. 参考資料：サブセグメント別 四半期売上高

(金額単位：億円)		2024年 1Q	2024年 2Q	2024年 3Q	2024年 4Q	2025年 1Q	2025年 2Q	2025年 3Q	2025年 4Q	2026年 1Q
高分子		141	140	141	132	139	144	141	139	170
	フィルム	90	88	82	84	84	80	78	84	101
	樹脂	34	34	35	35	36	35	37	38	45
	その他	17	18	24	13	20	29	26	18	25
機能資材		93	91	92	95	96	95	101	46	49
	ガラス繊維	24	24	23	22	23	27	31	27	32
	ACF	5	5	5	6	5	6	7	6	7
	ガラスビーズ	8	6	7	7	8	9	7	8	7
	モノフィラメント	26	23	23	25	27	21	26	3	3
	不織布（撤退）	30	32	35	34	33	32	29	1	-
その他*		73	78	87	102	74	74	93	45	21

* 旧繊維セグメントの数値は「その他」に含む。

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、
本資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて作成したものであり、
実際の業績等は、今後の種々の要因によって、
本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。